

全体会午後の部 I

司会者 それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部 I を始めたいと思います。午後の部の司会を担当します藍住中学校3年の f, 藍住中学校3年の r です。よろしくお願いします。午後の部は、前半の I と後半の II の2部構成になっています。最初に意見発表を2本ずつしていただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合い、みんなで本当の笑顔を輝かせていきたいと思いますので、皆さん、どうぞご協力、よろしくお願いします。まずは前半1本目の意見発表です。吉野中学校2年、辰巳日花里さん、「差別をなくすための私の一歩」です。よろしくお願いします。

差別をなくすための私の一歩

吉野中学校 2年 辰巳日花里

生まれてきた場所、または住んでいる場所によって差別をする人がいるのは、どうしてでしょうか。

誰もが、生まれてくる場所は選べません。それでもほとんどの人は自分が生まれてきた町に愛着を持っていると思います。私も、この吉野町が好きです。吉野町は、自然がいっぱいで何より優しい人が多いと思います。学校からの帰り道、「こんにちは」と挨拶した人が「おかえり」や「気をつけて帰るなよ」などと言ってくれることがとてもうれしいです。吉野町っていい町だなんて思います

自分が生まれてきた町によって自分が全否定される、つまり、部落差別という事実があるのはとても悲しいことだと思います。

私は、中学生になるまで部落差別についてよく知りませんでした。私が住んでいる町が差別されることがあるという話も、中

学生になってから知りました。今なお、住所を言ったとたんに結婚を反対されることがある、という話が信じられませんでした。好きな相手と結婚できなかつたらと考えると、悲しみを通りこして部落差別が本当に憎らしくなります。こんな理不尽なことはありません。今までにそんな扱いを受けた人がたくさんいて、今もまだ差別が残っているという事実は本当にくやしいし、あってはならない事です。

さらに、一昔前には、大雨が降るとすぐに浸水するような低地や、河川が氾濫した時は命の危険があるような土地に住むしかなかったり、部落差別のせいで会社に採用されなかったりした人がいたそうです。

この話を聞いたとき、私は驚き、ぼうぜんとなりました。差別を受けるということが、まさか人の命や一生に関わるような問題だとは思っていなかったからです。

そして、だからこそ、学校で人権について学習しているのだと思いました。



それまでは、私は人権学習が何となく嫌だと思っていました。なぜなら学習を進めているうちに、人間の嫌なところ、怖いところを知ることになるからです。そして私にも、嫌なところがあります。それは、自分の身のまわりで「これはいじめにつながるんじゃないか」と思う言動を見ても、「やめなよ」と発言する勇気が足りないことです。その場の雰囲気流されてしまい、「これを言ったらどう思われるだろう」「言い返

されるかもしれない」と思って、一步が踏み出せないことがあります。人権学習をして、身のまわりや自分のことを振り返っていくうちに、そんな自分の嫌な部分に気付かされます。人権学習に一生懸命な友達や先生を見ると、自分はどんなのだろう、と考えさせられ、どんどん自分がなさけなくなってしまうこともあります。

また、私の祖母は、「あの人は地区の人やけん。」や、「あそこ通るときは気をつけな。」などと言うときがあります。大好きな祖母から、そんな言葉を聞くと、とても悲しくなります。祖母は、いつもはとても優しい人なのに、正しい知識を持っていないから、そんな発言をしてしまうのだと思います。そう言う言葉を聞いたときに、「絶対におかしい、同じ人間なのに。」と思うと同時に、祖母に正しいことを伝えるのは、学校で人権について学んでいる私の役目だ、とも思います。しかし今の私には祖母の考えを変える自信がないし、変えていくための一步を踏み出す勇気がありません。

そんなとき、県内外の中学生が集まる人権交流集会に参加することになりました。そこで、自分を変えようと行動している人たちと出会って、「私は何も変わろうとしていなかった」ということを、思い知らされました。

私は、わかっているのに一步が踏み出せない自分を、変えたいです。これまで向き合おうとしなかった自分と、しっかり向き合いたいです。そのためにも、まず私は、今までよりもっと真剣に人権学習に取り組み、自分の考えに自信を持ちたいです。そして、それを土台にして、身近なところで、思ったことを発言する勇気を持ちたいです。まわりの人の考えを変えるためには、私一人の力では無理かもしれませんが、友達や家族の力も借りながら、正しいことを伝えたいです。「勇気が出ない自分」「まわりに

流されてしまいそうになる自分」も、まだまだ私の中にますが、そんな自分としっかり向き合い、私自身のことも、家族のことも、周りのみんなのことも大切にできる自分になっていきたいです。

ご静聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半2本目の意見発表です。藍住中学校3年、川口野乃夏さん、「語り合いの人権学習から学んだこと」です。よろしくお願いします。

語り合いの人権学習から学んだこと

藍住中学校 3年 川口野乃夏

私は、学年全体の仲間と思いや願いを語り合う人権学習によって、「生きること」に対する考えが、がらりと変わりました。



「語り合い」の人権学習というのは、自分の思いや願いを語り合う学習です。この人権学習の中で、私は「A君の生活ノート」という資料に出会いました。その資料の中には、A君の父親に対する思いが綴られていました。そして、A君が自分を語る映像にも出会うことができました。その映像は、2000年3月、京都市立弥栄中学校で実施された「弥栄中学校と板野中学校とのジョイント人権学習」の映像でした。私は、A君の語りに、人権学習の中で成長していった「生きる誇り」を感じることができました。A君は、小学校1年生の入学式の日、父

親を亡くしました。だからA君は父親のことをほとんど覚えていません。しかし、A君は、父親の死の背後に、父親が職場で体験した部落差別があったことを知ります。A君が綴った「生活ノート」には、父親の無念な思いを受け止め、自分を支えてくれる家族への感謝の気持ち、部落解放に向けて生きる「未来への希望」がびっしりと綴られていました。

私にも、父がいません。私が幼稚園の時に両親は、離婚しました。私はA君と同じように、父のことをあまり覚えていません。父を見るのは、いつも写真の中だけです。私の母は、父が兄や母に暴力をふるっていたことをよく私に話します。そして、最後には、離婚したのは正解だったと言います。

私にとって、厳しい母ですが、母は、父がいなくてもさみしくならないように、家族をいろんなところへ連れて行ってくれました。私のアルバムの中に、その写真がたくさんあります。だから、父がいなくて嫌な思いはしたけれど、寂しい思いをしたことはありません。そのことを家族に感謝しています。

でも私は、小学校低学年までの記憶がほとんどなく、覚えているのは、4才の頃に離婚を告げられたことだけです。なぜか、離婚を告げられた日のことは、今でも鮮明に覚えていて、体調が悪くなると必ず夢に出てきます。それがすごく嫌で、とてもつらいこととなっています。

私は、「A君の生活ノート」から学んだ「語り合いの人権学習」の中で、部落差別に対する体験を一生懸命に語りました。今でも、部落差別は根深く残っています。実際、私の周りにも同和地区の人を嫌がる人はたくさんいます。それは、様々な利害が絡んだとき、血を吹き出します。

私の知人が交通事故を起こしたとき、たまたまそこが同和地区でした。そして、そ

の人が事故をした時に最初に思ったことは、「相手の人が、同和地区の人だったらどうしようか」ということでした。私は知人が差別をしていることが嫌で、どうしたらいいかと考え、私が一番信頼できる人に相談しました。すると、その人にも「同和地区の人は、何を考えてるかわかんけん、ほんまに危ないよ。」と言われました。また、別の知人は、引越しをする際、良い物件を見つけたのに、そこが同和地区であったことで、その物件を避けました。そんな一つ一つの事実は、私にとって、すごくショックでした。

部落差別は、生まれた場所で人を決めつけ、傷つけます。同和地区の人の中には、優しい人がたくさんいます。同和地区の人だからこうだと決めつけるのではなく、まず一人ひとりを見てほしい。今、私たちに問われていることは、同和問題を「わがこと」ととらえ、予断と偏見を取り除き、一人ひとりをしっかりと理解していくことだと思います。



私は、今、「人権を語り合う中学生集会」に参加しています。集会には、大勢の人が集まって意見交換をします。私は前向きに考えている人がこんなにいるのだと毎回思います。そして、すごく嬉しくなります。でもそれとは反対に、差別をする人もいます。無関心な人もいます。私はまず、無関心な人に差別の残酷さを知ってほしいと思っています。

人権問題に積極的にならないと、差別の残酷さはわからないと思うし、差別をしている現場を目撃した時に、そういう知識がないと注意もできません。

最近では「差別」という言葉をなかなか聞かないから「差別」がなくなりだしているのだと思われがちですが、それは今、目の前で起きていることに目を背けて、自分は関係ないと勝手に一線を引いている人が増えてきているだけだと、私は思います。

そういう人に人権問題に関心を持ってもらって、正しい知識を身につけることで、目の前で起こっていることに目を背けることなく、様々な人権問題を「わがこと」として考え、差別をなくしていく人達を増やしていきたいと思っています。

私には将来、看護師になるという夢があります。看護師として最も問われていくことは、確かな医療の知識を獲得し、患者さんとの、豊かな人間関係を築き、信頼の絆をつくっていくことだと思います。それは、まさしく「語り合いの人権学習」で学んできたことです。

私の看護師になる夢は、私の人間としての生き方が問われ続けていきます。だから、15歳の今をひたむきに学び、精一杯生きていこうと思います。そして、「語り合いの人権学習」を通して、自分の一番大切なことを語ってくれた藍住中学校の仲間を誇りとして、様々な人権問題を解決していく看護師になりたいです。ご静聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。それでは、これから意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者の皆さんの思いを語っていただければと思います。マイク係として、板野中学校2年のsさん、藍住中学校3年のtさん、

藍住中学校3年のuさんの3人がフロアをまわります。なお、記録の関係上、発表者は、学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。

名和中学校 3年 v 「差別をなくすための私の一歩」の中に、「一歩が踏み出せない」と「まわりに流される」というのがあって、僕もそんな感じなので、これからはしっかりと一歩が踏み出せる自分にしたいです。



名和中学校 2年 w 「差別をなくすための私の一歩」で、私も大好きな人に、「あの人は地区の人やけん」とか「あそこを通るときは気をつけな」とか言われたら、ショックだけど、「それを間違っている」と伝えられる勇気を持ちたいと思いました。

屋島中学校 3年 x 僕は「語り合いの人権学習から学んだこと」にある、「人権問題に積極的になる」というところについてよく考えました。いじめになるようなことを見ているとき、「やめなよ」と言うこともできるはずなのですが、それを言うと自分が巻き込まれてしまう、そんな恐怖が僕をよく襲うことがあります。でも、そこから一歩踏み出してみても、とりあえず一歩踏み出すことで、そこから考えて行動していけたらいいな、と思います。

屋島中学校 3年 y 私は、まだまだ部落差別について知らないことがたくさんあると思います。まずは、自分が部落差別について知ることが一番だと思いますが、それをまわりに広めていくことも、私の役目だと思います。これからは、自分の勉強とともに、まわりの人間にも広めていける人になりたいです。

応神中学校 3年 p (川口) 野乃夏さんの作文を聞いて、自分の夢とか、なりたいものがはっきりしていて格好いいな、と思いました。



応神中学校 3年 z 川口さんの作文を聞いて、私の両親も今年の3月に離婚して。結構嫌な思いとかもしたんですけども、お母さんは結構いろんなところに連れていってくれて、どこの親も子どもを寂しい思いをさせないようにするのは一緒かな、と思いました。

応神中学校 3年 o 僕は二人の作文を聞いて、まず差別、いじめや部落差別について正しい知識を身につけるのが一番だと思います。ただ、身につけただけでは広がっていかないの、さっきの作文にもあったんですけど、最初の一步、踏み出す勇気が必要だと思います。僕もいじめにつながるようなことを時々見るんですけども、やっぱり注意することができない、できにくいんで、これからは勇気を出して一步踏

み出して、注意していきたいな、と思いました。

名和中学校 2年 a a 僕は、「差別をなくすための私の一步」にあった、「その場の雰囲気流されてしまう」というのが、僕もあるの、僕も流されないような力をつけたいです。

応神中学校 3年 a b 藍住中学校の川口さんの発表を聞いて、「同和地区だからといってその人を決めつける」とか「差別する」とかはおかしいと思いました。

名和中学校 3年 a c 「差別をなくすための私の一步」で、「自分が生まれてきた町に愛着を持っていると思います」のところに共感できたのでよかったです。

高浜中学校 1年 a d 私は部落差別のことはよく知らないけど、部落差別も、差別といじめと同じようにひどいなと思いました。私も部落差別のことを知って、みんなに教えてあげたらいいな、と思いました。

藍住中学校 2年 a 私の親が人権問題とかのことをあまり知らないみたいで、この間、部落差別のことで、部落の人を否定するようなことを言っていたので、ちゃんとした知識を親にも教えてあげたいな、と思いました。

土庄中学校 3年 a e 川口さんの話を聞いて、僕もさまざまな人権問題をわがごととして考えなければならない、と思いました。僕たちの学校も、まだ差別があると思うので、明日からみんなに声をかけていって、段々となくしていきたいと思いました。

中山中学校 2年 a f 私も人権学習を頑張って、まわりの人と話し合っていきたいと思いました。

国府中学校 1年 a g 同和地区だからといって差別するのはおかしいと思いました。

国府中学校 1年 b 「差別をなくすための私の一歩」で、「これはいじめにつながるんじゃないか」ということがあっても、私は止められないし、自分でぼろっと人が傷つくようなことを言っているかもしれないので、言わないことはもちろん、止められるようになっていきたいと思いました。

中山中学校 3年 m 藍住中学校の川口さんの作文を聞いて、「差別（のこと）がなかなか聞かないからなくなりだしているんだ、と思われがちだけど、目の前で起こっているのに目を背けている」ってことについて、差別が目の前で起こっているのに、それを分からずに何かスルーしているのが、ちょっと差別って怖いな、と思いました。

応神中学校 3年 p 吉野中学校の辰巳さんの作文を聞いて、私のお祖母ちゃんも「あの地域の人には危ないけん」とか言うんですけど、ちょっと自分の信頼している人がそういうことを言うのは悲しいな、と共感できました。

屋島中学校 3年 a h 僕はこの人権集会に参加するまでは、部落差別とか、そういう単語自体、知りませんでした。しかし、この川口さんの作文を聞いて、自分は一線引いて逃げているだけだ、ってことに気づかされました。これからは、積極的にさまざまな人権問題に向き合っていきたいと思います。

大山中学校 1年 a i 僕も、まわりに流されてしまいそうになる自分があるので、そんな自分としっかり向き合って、思ったことを発言する人になりたいと思いました。

藍住中学校 2年 i 川口さんの作文を聞いて、川口さんの知人が事故を起こしたとき、「相手が同和地区の人だったらどうしよう」と思ったことに、少し不思議に思いました。相手の人が同和地区だったら、どうしていけないんですか。



藍住中学校 3年 発表者 今、知人が起こした事故について質問があったんですけど、私の知人がどうしようかと思った理由は、やっぱり部落の人に偏見があるので、修理代とかぼったくられるというイメージがあったみたいで、それで部落の人だったら嫌やなというイメージがあったそうです。

国府中学校 1年 a j 私は、同和地区の人に会っても、差別しないようにしたいです。

鳴門市第二中学校 3年 a k 自分から「やめよう」って発言する勇気を持つには、まず意見をはっきり持って、感じて、そして実行することが大切だと感じました。

応神中学校 3年 a l 私の家族の一人から、私の友達のことを「あの子は部落の子やけん、付きあわれん」と言われて、とて

も悲しくなりました。だから、その間違っ
た知識を持った家族に、正しい知識を持っ
てもらいたいです。



藍住中学校 3年 d 私の家族の中では、あ
んまり人権問題っていうのは話題にならな
くて。去年、私がここに来て発表して、そ
の後、家に帰っても、私は自分から「こう
いうことがあったよ」と言うのは、言いづ
らくて。差別の話がでないのは、私は去年
まではいいことだと思ってたんですけど、
作文を聞いて、やっぱりそういう話がでない
ってというのは、もしかしたら家族が無関
心なんかな、とか思うところがあるので、
今日は帰ってから、ちょっと頑張って言っ
てみようかなと思います。

司会者 自分が見たり体験したりしたこと
についても、考えてみて発表してください。

吉野中学校 3年 am 私は、川口さんの
作文の中で「差別の残酷さを知ってほしい」
というところに共感を持って。私の家族の
中で、じいちゃんが「あそこの地区の人は
危ない」とか言っていて。別にそんなこと
はないんですけど、その差別をしていること
が、されている人にとってどんなに苦しい
かっていうのを分かってほしいし、教えて
あげたいし、自分ももっと差別のことを知
って、もっと間違っただけの考えを持った人
に、自信を持って言ってあげられるように
したいと思いました。

藍住中学校 3年 an 藍住中学校では、
川口さんの作文に書いていたように、語り
合いの人権学習を2年からやっています。
そのことについて、ちょっと紹介したいと
思います。語り合いの人権学習は、今まで
秘密というか、語りづらかったことなどを、
自分の言葉で素直に語り合えて、語った後
もすっきりして、友達、仲間が支えてくれ
て、すごく素晴らしい語り合いができる人
権学習です。だから、この人権学習をいろ
んな学校でもしてほしいと思うし、このこ
とについて学んだことをいろんな学校に知
らせていけたらいいな、と思います。

吉野中学校 3年 n さっきから発表して
くれているみなさんは、「家族に差別のよう
なことを言っている人がいた」とか、「知人
がそんなことを言っていた」とかがいくつ
かあったんですけど、私の家族や身の回り
では、そんなことは一切ないので、ちょっ
と、そういうのって、いろんな差別につい
ての話を、ちょっと失礼な話になるんです
けど、正直、ちょっとだけうらやましいな
って思いました。身近なところで、そうい
う差別の酷さとか辛さを知っている人や、
実際に差別をしている人がいるっていうの
は、絶対に自分の中で知っておいた方がい
いと思うし、私は学校では勉強しているけ
ど、部落差別をやってはいけないって知ら
ない人にいざ「何でやったらあかんの」っ
て聞かれても、知識がなかったら何も言え
ないので、今回、ここに来て作文やみなさ
んの発表が聞けて、本当によかったと思
いました。

屋島中学校 3年 x 同和地区という話を
聞いたときに、最初は全然意味が分からず、
親に聞いたりしました。すると、関係ない
と思っていた香川県にも、そのような場所
がある、ということまで聞きました。何処

とは言いませんが。そんなことを聞いて、この「差別をなくすための私の一歩」の中にある、「人の一生に関わるような問題がある」と聞いたとき、本当に腹立たしく思いました。同じ人間であるのに、こんな差別があるなんて。では、これをみんなが忘れれば、なくなるのでしょうか。僕は、そうではないと思いました。みんなが、それぞれが、お互いを認めて、正しい知識を学んで、それを広げていき、同じ立場で相手に接すること、できれば、他の差別もどんどんなくなっていくのだと思います。僕は、それができるように一歩一歩踏みしめていきたいと思いました。



名和中学校 3年 v 川口さんの作文で、「人権問題に無関心な人に、差別の残酷さを知ってほしい。人権問題に積極的にならないと、差別の残酷さは分からないと思う」と書いてあるところで、本当にそうだと思います。

中山中学校 3年 m さっき、二つぐらい前の、屋島中学校の人の意見で、やっぱり自分だけ分かったつもりでも、相手に言わなければ、やっぱり分かってないのと同じだな、って思って共感しました。

司会者 何度発表してもらっても構わないので、真剣に考えて、自分のことを話してください。

応神中学校 3年 o さっきも発表したんですけど、正しい知識をつけて、まわりにさっきは広げていって言ったんですけど、まず、自分の行動で、いじめとまではいかななくても、ささいな悪口や無意識のうちにしている差別とかを、まずは自分の中からなくしていきたいと思いました。

応神中学校 3年 z 辰巳さんの作文を聞いて、私も小学校のころは、まわりに流されてばかりだったんですけど。ある日、お父さんが、「ほんな、お前、流されてばかりだったら、まわりに、いつまでたっても流されて、自分の意見を言えんぞ」って言われて。そこから自分の何かが変わって、前よりかは、流されんようになったし、自分の意見が言えるようになったと思います。

藍住中学校 3年 r 私は今まで、この中学生集会に来るまで、同和問題を身近に感じたことがなくて。自分の母親や父親も、あんまり差別をするような人でなかったの、同和地区について差別したらあかんけど、それは分かっているんやけど、身近には感じてない状況だったんですけど。この集会に来たとき、小さなグループで語り合いをしたときに、ちょうど議題が同和問題で。近くの町とかでも、自分は知らなくても同和地区とかあったりして、そのことについて聞いたりして。こんなに近くに同和地区があったのに知らなかったっていう自分が恥ずかしくなりました。

藍住中学校 3年 d こうやって、こういう感じで交流会みたいなんをして、意見を交換して、部落差別や同和問題についてちょっと理解が深まっても、いざとなったときに、もし自分の友達とかが、「私、同和地区なんよ」って、もし言われたときに、私はたぶん息が詰まると思います、一瞬。ど

うしよう、どうしようって考えて。でも結局、ここで見捨てたら差別になるよな、って一瞬考えないと、そういうのを乗り切れない自分っていうのがあると思います。みなさんも、たぶん、そういう場面にあったときに、自分だったらどうするかな、とか、私だったらこうするよ、とか言ってもらえたら、と思います。



応神中学校 3年 o 今の意見について、部落差別とかについて正しい知識、こういう集会とかも開いてつけているじゃないですか。今だったら、何ていうか、部落の出身って言われても、僕、普通にスルーできると思います。

吉野中学校 3年 n ちょっと作文からは離れた話になるんですが、ちょっと前にうれしいことがあって。クラスで道徳の時間に、部落差別の結婚差別についての話を、資料を読んでどう思うか、とか、自分が親の立場だったらどう思うか、とかいうことを書いて発表するというのをしよって。そのときには、クラスでいつもワーワー言ってるさくて、後ろでたむろして先生を怒らせるような男の子が数人おって。その男の子やが、授業中はほとんど寝たりしゃべったりして真面目に聞いてない感じだったんですが、その中の一人の子が、その授業が終わって給食中に自分の仲の良い、同じくちょっと問題児かなっていう人がいっぱいおるようなところに走って行って、「俺、

さっきの道徳の時間で思ったんやけど、部落差別っていうんは、部落の人が悪いんじゃないよな。絶対に。」って言って。自分から、自分と同じように今まで先生に反抗したり人の悪口言ったりしよった子に、自分から話をもちかけたんが、すごくうれしくて、近くの席だったんで聞いていたら、「部落の人じゃって決めつけて差別するまわりの人間が一番悪いんじゃないよな」って言って。でも、その子以外のその子の友達は、本気で興味ないみたいだったんで、「あっ、そう」みたいな感じで聞き流しよったけど、その子だけは、一生懸命聞いてくれんでも、自分から「でも、俺も、そういうこと、するかも。もし、部落の人に出会うたら、そういうこと、するかもしれんけど、今から学んどけばいけるんちゃうん」みたいなことを言いよって。そういうちょっとでも、前向きに考える子がおったらうれしいなって思ったのと、私もその男の子のことは、クラスでもただうるさくて、先生を困らすうとうしいやつじゃと思っとったけん。ほなけん、正直、その子に関しては諦めとって。ほれが、そんな真面目な話、自分からうれしそうに話し出してくれたんが、すごくうれしかって。そういう人が、みなさんの学校でも増えたらいいなと思いました。

藍住中学校 2年 a さっきのdさんの意見で「友達が部落の人だったら」という話がでたと思うんですけど、私は、友達が部落の人だったら、今だったら、こういう人権の交流会にも参加しているし、学校でもたくさんのことを学んでいるので、そのこととかをいっぱい話して、「心配せんでもいいんじゃないよ」って友達に言って、安心させてあげたいです。

中山中学校 3年 m 今回の集会、2回目なんですけども、こうやって、初め、みんな

なで集まったときに、グループの人が気さくに話しかけてくれて。その人に急に部落出身だって、言われても、どちらかといえ、昨日とかまであんなに楽しく話してたから、やっぱり差別とかはできないなって思います。

藍住中学校 3年 a o 今、私の目の前に、マイクを握ってしゃべろうかどうしようか悩んでいる人が二人ほど見えるんですけど。私も、最初はマイクを持ってなくて、全然しゃべられなかったんですけど。勇気を出して持ってみたら、どんどんしゃべれるようになって、自分の経験値もどんどん上がって、しゃべれるようになったので、ぜひ持ってほしいと思います。



藍住中学校 3年 a p 私は、小学校から道徳の時間とかも、ただ単に、ほとんど遊ぶ時間と思って、先生とかが何か言っても、ほとんど話とかまったく聞いてなくて。質問とかされても、おもしろおかしく答えるだけで、真剣に考えることなかったけど、中2のときに初めて語り合いの学習をしたときに、初めて自分のことをいっばい言えたり、他の友達のこともしろいろ聞いて、ごっつい語り合い学習はいいなと思いました。言ったあとは、ごっついすっきりして、言えてよかったなって思いました。

藍住中学校 1年 a q 今まで自分は、障がい者の差別とか、お年寄りの差別とか、いろいろ見てきたんですけど。やっぱり、どの差別も共通しているところがあると思うんですよ。知らないから、勝手なイメージが頭に定着して行って、それがどんどん実際に行動に出るといいます。それで差別が起こると思うんです。私は、小学校6年生のときに、一回、部落差別のことについて少しだけ勉強したんですけど、でも、過去形のような感じで、あんまり内容も覚えてなくて。部落差別はなくなったと、そのとき思ってたんですけど、あんまり深く考えてなかったんですけど、前にも作文聞いたりして、やっぱり身近に部落差別があるっていうことを分かって、自分が勝手に終わったことなんだと思ってたのが、「あれ、何でだろう」って思うようになって。これから部落差別について、どんどん勉強していくと思うけど、今起こっていることとして考えるように、勉強してきたいと思いました。

吉野中学校 3年 g 差別やいじめがあるのは、人間がつくったものだから、それを消すのも人間だけだと思います。

屋島中学校 3年 y 私は、小学校3年と4年のときに、父親の都合で東京に住んでいました。そのときに、近くに障がい者施設があって、月に1回、学校で訪問することになっていました。私は、クラスで行ったときに、いつもしゃべりかけてくれる障がい者のお姉さんがいて、その人とよく話していたんですけど、その人は、いつも私に「こうやってあなたがここに来てくれることは、他の人にも広げていくべきなんだよ」って、いつも言われていました。今は香川県に住んでいて、そこのお姉さんと会うことはないんですけど、そのお姉さんの言葉

をいかして、今の近くにいる人たちにも、障がい者のこととか差別のこととかを広げていきたいと思います。



板野中学校 3年 h ちょっと別の話になってしまいますが、「部落差別」という言葉を聞いたのは、中学校1年生のときです。それで、最初にこの言葉を聞いたときの「何だ、この差別」「こんなもんがあるんか」って思ってしまいました。それで、作文に入っていた、結婚のこととか土地のこととかで、知人が、横とかで話していたときに、それで聞いて。ああ、そんなことが部落差別なんか、って。そこの土地は悪い訳でないのに、勝手に決められた。それが今でも根強く残っているということ自体が、自分にとってはおかしいんじゃないかと思って。もう。普通に消えているはずだと、自分では思っているんですが、まだ、今残っているという、それが悔しくて、早くこの部落差別をなくしていきないな、と思いました。

屋島中学校 3年 x 小学校のときに、あるミスをしたせいで、帰り道、みんなで、8人ぐらいだと思いますが、囲まれて責められたことがありました。そのときに泣いていたのですが、一人の子が優しく声をかけて、途中まで一緒に帰ってくれました。そのときに、かけられた言葉はそこまでもなかったんですが、そうやって助けてくれたこと自体が、とてもうれしかったです。こんな感じで、辛い思いをしている人に、

少し声をかけてあげて、同じ立場で話してくれる。それだけで、とても心が救われるのだと思いました。

応神中学校 1年 ar 僕も差別のようなことをしたことがあるので、そのときは考えていなかった「わがごと」ということを考えていきたいと思います。

応神中学校 1年 as 先ほど言ったhさんとちょっと話が似たようになるんですけど。「部落」という言葉を初めて聞いたのは6年生で、「部落って、何、それ」みたいな感じの、半信半疑な考えだったんですけど、中学校に入って、この人権集会や道徳の時間で、部落差別とか、こういうんがあるんだとか知って。まだ、「部落って何だろう」という点もありますが、その部落で人を差別することは、自分的には、というか、ここに来ているみんなもそうだと思いますが、絶対、これは「差別はしたらあかん」とか、「部落で差別をするのは駄目だ」とみんな思っていると思います。僕も同じで、部落の人だけで、なんでこんなにひどい、辛い思いをしなければならないのかって思うところがあります。この人権集会に来て、差別や部落に対しての意識がちょっと高まりました。

名和中学校 1年 at 最初の作文を読んで、僕は分かっているのに一歩が踏み出せないときがあるので、一歩が踏み出せない自分を変えたいと思いました。

名和中学校 1年 au 「止めなよ」と発言する勇気がたりないので、勇気をつけていきたいです。

大麻中学校 1年 av 僕が部落差別を知ったのは、4年生ぐらいのときで、その後

は、何となくしか分からなかったけど、小学校6年生のときに識字学級の人との交流があって、それで、部落差別を受けた人たちに話を聞いて。部落差別がどれだけひどいものか、というのを知って。それで、僕は、こういうことを二度と、部落差別が増えないように、活動とか「止めなさい」と言うこととかを言っていきたいと思います。

名和中学校 1年 aw 「差別をなくすための私の一歩」で、「その場の雰囲気流されてしまう」「これを言ったら、どう思われるだろう」「言い返されるかもしれないと思って一歩が踏み出せないことがある」ということに共感しました。

東郷中学校 3年 ax 僕は、いじめや差別に関することについて、詳しく学んで、正しい知識を身につけて、間違った考えをもっている人の考えを変えていきたいと思いました。

応神中学校 3年 ay 応神中学校で7月の12日に行われた人権作文意見発表会で、僕がクラスの代表で作文を読んだんですよ。それで、作文を読み終わって、教室に帰るときに、友達に「お前、ほれ、きれいごとだろ」って言われて、僕、何のことか分からなかったんですよ。ほなけん、後からよくよく考えてみると、「きれいごと」って言われたのが、ごっつい腹立ってきて。それ以来、何か、もっともっと人権活動していけたら、と思いました。

司会者 大人の方でもいいので、発表してください。

名和中学校 教員 az 今日、「あの地区に行ったらいかん」とか「事故のあったら危ない」とか、そういうことが意見発表の中

にあったと思いますが。今、39歳なんですけど、僕が小学校のときも、親から、同和地区の友達の家遊びに行くときに「そこは行かんほうがいい」とか、後は、社会人になって勤めるときに、「あの道路は通らんほうがいい」とか、そういうことを言われたことを、今でもはっきり覚えていま



す。小学校のときは、ちょうど同和問題学習、人権問題学習が始まった頃だと思います。僕もちょうどその小学校のときに、勉強し始めていたので、「何でそんなこと、言うんだ」と思っていました。それから学習を積んでいって、これは差別なんだということが分かってきました。そんなときに考えたのは、自分の大切な家族がそういう差別的な発言を家でしているというのが、とても悲しかったし、いつもそういう話になったら自分は家族と、自分は一生懸命説明しようと思うんだけど、それが言葉がうまくまとまらなくて、いつもケンカみたいになっていきました。言葉の力って、とても大切だと思っています。今日、このフロアでたくさんの方が発表して、「正しい知識を学ぶことが大切」とか「それを広めていくことが大切」ということを、何人もの人がいってくれましたが、僕も同じ気持ちで、きちんと相手に伝えようと思ったときに、それを伝えるためには正しい知識と、それを伝える言葉が大事だなと思っています。今でも、人に何か言われたときに、何も言い返さなかったりとか、「この発言はお

かしいじゃないか」ってことがあっても、何も言えなかつたりするときがあるので、そういうときにも行動できる自分でありたいっていうのは、中学生だけじゃなくて、大人になったこの僕も一緒なので、中学生のみなどと、今日は最後まで一緒に頑張っで学習して帰りたいと思います。今、発表頑張ってくれていますが、やっぱり自分の体験とか自分の思いとか、そういうことを言うと、やっぱりそれに返して、それを伝えると、返してくれる人がたくさんいると思うので、この後もそういう討議になればいいと思っています。ありがとうございます。



板野中学校 教員 b a 今、a yさんが人権作文を学級代表で読んで、「きれいごとちゃうんか」という話を聞いて、僕、その内容がすごく気になって。どんな作文を読んだのか、ちょっとかいつまんで言っていたら。どんな作文読んだんだろうって、モヤモヤしてしているんです。解決してください。お願いします。

応神中学校 3年 a y 僕が書いた作文というのは、本当に今までの思いを作文に書いたっていうので、題名は「身近にある差別」っていうので。差別は身近にあるじゃないですか、友達の会話とか、テレビの中とか。自分は気づいてないけど言うとなつたりして。僕も気づいてないうちに、人を

差別したりしてるのかもしれませんが。そういう作文を書きました。

東郷中学校 1年 b b 僕は、自分の目の前でいじめが起こっていることを分かっているのに、注意するという一歩が踏み出せない自分を変えたいと思いました。

藍住中学校 1年 a q ちょっと話は戻んですけども、さっき、「きれいごと」とかの話が出たじゃないですか。私の今いるクラスで、今、藍住中学校で人権作文の発表会をやったんですよ。そのときに、その感想を書いて。その中で、うちのクラスの一人が、何か「きれいごとを言っているだけだ」みたいにとらえて、「こういう会は無駄じゃないのかな」って言っていたんですよ。それについて、クラスで討論というか、話し合い、「どう思う」とかやったときに、やっぱり「きれいごと聞こえる」という部分に否定はなかったんですよ。でも、やっぱりそれをやらなかったら、何も始まらないし、何も変わらんし、何も伝わらないっていうことで、やっぱりやることには、例えどんなにきれいごとだったり、残酷な内容が入っていたとしても、「絶対必要だな」というのを、みんなで話し合っていました。だから、自分も正直、今、きれいごとを言っているのかなとか思ったり、自分が発する言葉が今きれいごとなんじゃないかな、とか思ったりもするんですけども。でも、聞いてくれている人もいるし、それを言っているのは自分自身の考えというか、そういうものなので。両方の意見があつて考えられるとというか、両方の意見は絶対何処かにはあるんだなつて、うちのクラスだけじゃないんだなつて思いました。

応神中学校 3年 p さっきの藍住中学校の人の感想とか聞いて、私もかなり前なん

ですけども、小学校のときなんですけども、「いじめをなくそう」とか、そういうことを言うと、「偽善者」って言われたことがあって。何を偽っているのか、自分では分からなくて、何が悪いんだろうとか思ってたんですけど。やっぱり中学校になって、「いじめをなくす」とか「差別をなくす」とか、そういうのをきれいごとって言うんですかね。でも、そういうのって、実現するのは本当に難しいと実感して、きれいごとって言う、思う人もおるかもしれんけど、実現するのがどんだけ難しいかってことも知ってもらいたいけん、これから、ほういうことを学校に帰ってみんなに言いたいと思いました。

屋島中学校 3年 x さっきの「きれいごと」ということについて、みなさんの考えにすごく共感しました。「出る杭は打たれる」みたいなことわざもありますが、きれいごと、例え、それがきれいごとだとしても、せっかく、この人権を語り合う中学生交流集会2013に来ている私たちが広げなければならなくて、誰が広げるんだと、そう思いました。だから、僕も学校に帰ったら、ここで学んだことを広げて、少しでも良い学校にしていきたいなと思いました。

中山中学校 3年 m 前に、さっきまで話題になってたんですけども、私が部落差別を知ったのは、4、5年生のときなんですけども。たまたま習い事で一緒になった、仲良くなったお姉ちゃんがいて、6歳ぐらい上の。その人に誘われて解放文化祭に行ったときに、私は正直、そのころ人権学習を学ぶことがすごく格好悪く思えてて。でも、渋々行ってみて、そのとき、講演会中で、それを一生懸命聞いてて、メモをとりながら聞いてて、なぜか、それが何か、すごく格好良く思えて。そのとき、その人が

被差別部落の出身だって聞いて、そのときに、なぜかそういう差別関係を知ることが格好悪いじゃなくて、どちらかと言えば、格好いいと思えて。今、その人に誘われて、学習会とかこういう集会に参加してるんですけど、そういう集会とか、差別とか知ることとかは、どちらかと言えば恥ずかしくない、とても良いことだと思っています。

応神中学校 2年 bc 私のクラスで、これはいじめにつながるんじゃないかというものがある。でも、自分では「止めよう」とか言えなくて、何日も何日も後悔してしまっ、今でも後悔してしまっています。だから、次、見たときにはちゃんと注意できる人になりたいと思いました。



名和中学校 2年 w 一つ前にあった、解放文化祭のことなんですけれども、一応、私も参加していて。解放文化祭で呼びかけて、そういう風に思ってもらえるならよかったなと思いました。

屋島中学校 教員 bd さっき、きれいごとという話があったんですけども、去年、私のクラスで道徳開きの授業をしたときに、ペットボトルの中に雑巾の水を一滴絞って入れたんです。「この一滴入った水をきれいにするにはどうしたらいいか」という授業をしました。いろいろみんなで考えたんですけども、やっぱり「入ったものを濾過する」とか「薬を使っただけ」とか考え

たんですけど、中々そんなことはできなくて。「人間の心に入った黒い水をどうやってのけたらいいか」っていったら、最後は結局、どんどんきれいな水を継ぎたしていくことだ。そうしたら、なくなることはないけど、薄まることはできる。だから、こう



やってみんなで考えているときに、たぶん今、きれいな水がたくさん入っているんだと思うんです。そのきれいな水を入れているこの瞬間をやっぱり大事にしてほしいなあと思うのが一つと、私はいつもこういう会に参加して思うんですけども、私の中に差別意識はないか。「差別するのがいけない」と頭で分かっているんだけど、実際に自分で、『本当に「私は地区の人じゃなくてよかった」って気持ちがないか』って、いつも問いかけています。自分の中の黒い部分、たぶん、子どもよりいっぱい私の方があるんですけども、黒い部分と向き合っていくことも大事なことなんじゃないかなと、今日思いました。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、この辺りで午後の部Ⅰの話し合いを終了します。時間の関係で、高浜中学校がここで帰ります。最後に一言ずつお願いします。

高浜中学校 1年 ad 今日、人権のことをみんなで出し合っていて、人権のことを深く知れたし、部落差別という言葉は初めて知ったので、今日は参加して本当によかったと思います。勝手ですが、遠いので

先に失礼します。

司会者 10分間の休憩を取りたいと思います。10分後には、元の席に戻ってきてください。